

熊本高専中期目標	熊本高専中期計画	熊本高専 平成24年度計画	index	平成24年度計画の 点検結果	次年度(平成25年度) に向けた課題	達成度 (◎、○、△、×)	
						単年度	通算
						注)単年度 とは平成 24年度	注)通算と は、平成 21～24年 度
(序文) 独立行政法人国立高等専門学校機構(以下「機構」という。)の中期目標を前提として、熊本高等専門学校(以下「本校」という。)が達成すべき業務運営に関する目標(以下「中期目標」という。)を定める。							
(前文) 本校は、独立行政法人国立高等専門学校機構法に基づき、職業に必要な実践的かつ専門的な知識及び技術を有する創造的な人材を育成するとともに、我が国の高等教育の水準の向上と均衡ある発展を図ることを目的とする。この目的に照らし、本校の理念を以下の通りとする。 「熊本高等専門学校は、専門分野の知識と技術を有し、技術者としての人間力を備えた、国際的にも通用する実践的・創造的な技術者の育成及び科学技術による地域社会への貢献を使命とする。」 本校が育成する具体的な人材像はいかに示すとおりである。 (1)日本語及び英語のコミュニケーション能力を有する技術者 (2)ICTに関する基本的技術及び工学への応用技術を身に付けた技術者 (3)各分野における技術の基礎となる知識と技能及びその分野の専門技術に関する知識と能力を持ち、複眼的な視点から問題を解決する能力を持った技術者 (4)知徳体の調和した人間性及び社会性・協調性を身に付けた技術者 (5)広い視野と技術のあり方に対する倫理観を身に付けた技術者 (6)知的探求心を持ち、主体的、創造的に問題に取り組むことができる技術者	・本校の中期計画に基づき、平成24年度の業務運営に関する計画を次のとおり定める。						
(中期目標期間) 中期目標期間は、平成21年4月1日から平成26年3月31日までの5年間とする。							
I 教育に関する目標 実験・実習・実技を通して早くから技術に触れさせ、技術に興味・関心を高めた学生に科学的知識を教え、さらに高い技術を理解させるという高等学校や大学とは異なる特色ある教育課程を通し、製造業を始めとする様々な分野において創造力ある技術者として将来活躍するための基礎となる知識と技術、さらには生涯にわたって学ぶ力を確実に身に付けさせることができるように、以下の観点に基づき本校の教育実施体制を整備する。	I 教育に関する事項 本校において、別表に掲げる学科を設け、所定の収容定員の学生を対象として、高等学校や大学の教育課程とは異なり中学校卒業後の早い段階から実験・実習・実技等の体験的な学習を重視した教育を行い、製造業を始めとする様々な分野において創造力ある技術者として将来活躍するための基礎となる知識と技術、さらには生涯にわたって学ぶ力を確実に身に付けさせるため、以下の観点に基づき本校の教育実施体制を整備する。	I 教育に関する事項	I				
(1)入学者の確保 新高専の発足を機に、高等学校や大学とは異なる高等専門学校の特性や魅力について、中学生や中学校教員、さらに広く社会における認識を高める広報活動を組織的に展開するとともに入試方法の見直しを行うことによって、十分な資質を持った入学者を確保する。	(1)入学者の確保 ・高度化・再編による本校新学科のブランドイメージを確立し、地域社会や中学校との関係の緊密化をはかるためマスコミを通じた積極的・戦略的な広報を行う。	(1)入学者の確保 ・オープンキャンパスや中学校訪問などに使える、中学生向けの親しみやすい募集パンフレットやポスター等を作成し、積極的なPR活動を行う。また、作成したパンフレット等をもとに、新聞広告や列車広告等も行い、地域への情報発信を継続する。 ・中学生やその保護者に直接的に届く、イベント用の学校紹介チラシなどの制作・発行を検討する。 ・生徒数の多い他県(福岡県等)に対するPR活動を検討・試行する。	I (1)a	・学生募集パンフレットを作成し、熊本県内、福岡県南部、鹿児島北部の中学校に配布した。また、学校案内ポスターを作成し、鹿児島本線、豊肥本線、肥薩おれんじ鉄道の列車に3種類掲載した。 ・オープンキャンパスのチラシを作成し、熊本県内の中学生個人に配付するため、各中学校へ送付した。 ・福岡市内の全中学校を対象に学校案内(テクノモーション)、学生募集要項及びオープンキャンパスの情報を周知した。	・募集パンフレットの作成を早期に取りかかり、PR活動開始時期を早める。	◎	◎

熊本高専中期目標	熊本高専中期計画	熊本高専 平成24年度計画	index	平成24年度計画の 点検結果	次年度(平成25年度) に向けた課題	達成度 (◎、○、△、×)	
						単年度	通算
						注)単年度 とは平成 24年度	注)通算と は、平成 21～24年 度
	・オープンキャンパス(学校説明会、体験入学)を充実するとともに、広報誌(進学志望の手引き、学校概要など)やホームページ等による広報媒体を通して、本校の特徴や学科編成等を受験生や保護者に周知する。	・オープンキャンパスを実施する。特に、冬季の開催では進学相談に重点を置いて実施する。 ・授業見学会などを継続して開催し、高専を見知してもらう機会を増やす。 ・中学校訪問や学校説明会への参加を積極的に行う。	I(1)b	・熊本県内の本校の学科説明を希望する中学校を対象に、放課後中学校において生徒、保護者を対象に学科説明を行った(桜木中学校、八代第二中学校)。 ・冬季オープンキャンパスを実施し、本校受験を考える中学生向けに、学科の詳細、講義の詳細等、進学相談に応じた。 ・中学生を本校に招いて「授業見学会」を実施した。 ・県下の各中学校に中学校訪問を実施した。また、中学校主催の高校説明会にも参加し、PRを行った。	・それぞれのイベントで周知する内容に関し、周知時期に合わせて効果的なPRができるよう検討する。	◎	◎
・本校における教育内容や理系教育の面白さ・興味を啓発することを目的とした、中学校訪問や出前授業を積極的に行い、中学校との連携を深める。これらの校外広報活動をとおして、本校の特徴や魅力をより深くアピールする機会を増やす。	・熊本県下全域および他県への中学校訪問を実施するとともに、中学校での学校説明会等へも積極的に参加する。 ・地域のイベント等へ積極的に参加し学校PRを行う。	I(1)c	・中学校訪問の実施並びに中学校の学校説明会に参加し、本校の概要及び学科、入試に関する説明を行った。 ・福岡地区で行われた3校合同説明会に参加し、本校をPRした。 ・地元(熊本キャンパス)の合志市主催の第4回合志市環境フェスタに参加し、学校のPRを行った。	・他県への中学校訪問を実施する。	◎	◎	
	・中学校訪問や出前授業、招待授業を積極的に行い、中学校との連携を深めるとともに、本校の特徴や魅力をより深くアピールする機会を増やす。 ・小学生向けの工作教室や実験講座などを開催するとともに、工作教室の企画を常に見直し、より魅力のある内容にしていく。 ・地域の子供向けイベント等に積極的に参加する。	I(1)d	・中学校訪問の実施並びに中学校の学校説明会に参加し、本校の概要及び学科、入試に関する説明を行った。 ・阿蘇郡南小国町(郡部地域)において科学実験教室を開催し、中学生やその保護者に学校紹介パンフレットの配布を行った。 ・地域の小中学生を対象とした科学実験教室(年間20件程度)の中で、小中学生およびその保護者に向けて学校生活の様子等の情報を提供した。 ・12月9日「わいわい工作・実験フェスティバル」の公開講座において、小中学生およびその保護者に向けて学校生活の様子等の情報を提供した。	・多くの教員が各種イベントにかかわることができる仕組みづくりを検討する。	◎	◎	
高度化・再編に伴い、本科及び専攻科の入試方法を見直し、統一を図るとともに、本校の教育目標にかなった学生の資質を明示し、アドミッションポリシーを周知する。	・本科編入学者及び専攻科入学志願者募集要項の統一化を図る。	I(1)e	・募集要項の体裁を見直し、内容の一部統一化を図った。	・高度化・再編後の新設学科に入学した学生の成績などデータを分析し、入試システムへの反映を検討する。	○	△	
・入学者の学力水準の維持に努めるとともに、期間内の入学志願倍率を2倍以上とする。	・入学者の学力水準の維持に努めるとともに、平成25年4月の入学志願倍率について2.5倍程度を目指す。 ・広報活動や他県入学志願者の確保方策について検討する。	I(1)f	・ポスターを4種類作成して、鹿児島本線、豊肥本線、肥薩おれんじ鉄道の列車に3種類掲載した。 ・福岡市内の全中学校を対象に学校案内(テクノモーション)、学生募集要項及びオープンキャンパスの情報を周知した。さらに、過去に本校を受験した県外の中学校にも併せて周知を図った。	・他県入試志願者数を増やすべく、PR活動を活性化させる。	◎	◎	
(2)教育課程の編成等 産業構造の変化や技術の高度化などの時代の進展に即応するため、本校は下記に示す熊本地区の高度化・再編を着実に推進する。 ①準学士課程については、旧高専の8学科の特色を活かしながら、情報通信エレクトロニクス工学科、制御情報システム工学科、人間情報システム工学科のICT系3学科と機械知能システム工学科、建築社会デザイン工学科、生物化学システム工学科の融合・複合工学系3学科に高度化再編することにより、複合学科体制・ICT系技術分野を拡大・強化・発展させ両高専の得意技術の連携によりエンジニア・デザイン能力の育成や人間社会と自然環境との調和を目指した教育の充実を図り、国際的に通用する実践的・創造的な技術者を育成	(2)教育課程の編成等 ・高度化・再編に伴う各種課題を解決しながら、本校として統合の効果具体的に現れるよう、改革・整備を進める。	(2)教育課程の編成等 ・新しい教育課程の完成に向けて、新規科目の開講準備、関連科目間の連携、移行期間中の教育体制の整備を図る。	I(2)a	・新規科目の開講準備として、平成25年度開講科目を含めた時間割作成のシミュレーションと関連科目間の連携を図る打合せを実施した。 ・移行期間中の課題である、留年者等の新学科への転科等について、特に問題なく経過している。 ・新カリキュラムとモデルコアカリキュラム(試案)との対応状況について簡易的な確認作業を実施した。 ・到達目標に関して、JABEE・日工教共催のワークショップに3名の教員が参加し、学内へ情報提供を行った。 ・新カリキュラムにおいて特別選択科目等で不足する部分があり、これらを追加した。	・完成年度の新規科目の開講準備として、引き続き、時間割シミュレーションと関連科目間の連携を図る。 ・引き続き、留年生等への対応を図る。 ・新カリキュラムとモデルコアカリキュラム(試案)との対応状況の確認作業を継続して実施する。 ・到達目標に関して、JABEE・日工教共催のワークショップに基づいた検討を図る。 ・追加した科目等について、円滑な実施を図る。	◎	◎

熊本高専中期目標	熊本高専中期計画	熊本高専 平成24年度計画	index	平成24年度計画の 点検結果	次年度(平成25年度) に向けた課題	達成度 (◎、○、△、×)	
						単年度	通算
						注)単年度 とは平成 24年度	注)通算と は、平成 21～24年 度
<p>実践的・創造的な教育を育成する。</p> <p>②専攻科については準学士課程の高度化再編に対応しつつ、5専攻を2専攻に大括りし充実を図ることで、ものづくり技術を重視する点に特徴を有する、より高度な融合・複合教育研究を行う高等教育機関とする。</p> <p>このほか、全国的な競技会の実施への協力などを通して課外活動の振興を図るとともに、ボランティア活動など社会奉仕体験活動や自然体験活動を始め、「豊かな人間性」の涵養を図るべく様々な体験活動の機会を充実に努める。</p>	<p>・有識者による次世代の学科のあり方を検討する新分野検討協議会を開催する</p>	<p>・「熊本地区国立高専における新分野検討協議会」や「運営推進会議」、「地域における高等専門学校の在り方に関する調査」等の結果を踏まえ、本校の今後の方向性について検討を継続する。</p>	I (2)b	<p>・H24年11月27日に県内の有識者等を招いて、運営諮問会議を開催し、本校の教育・研究の方向性について、ご意見を頂いた。</p> <p>・昨年度の運営諮問会議で提案いただいた事項については、自己点検評価委員会、運営推進会議等を経て、学校運営の改善に繋げている。</p>	<p>・熊本高専として、これまでの実績に基づいた研究分野の推進を図るとともに、その基盤を生かした新たな分野への研究拡大を図る。</p>	○	○
	<p>・学習到達度試験やTOEICを活用して、基礎知識・技術の習得状況を確認すると共にその向上を図る。</p>	<p>・学習到達度試験やTOEICを活用して、基礎知識・技術の習得状況を確認すると共に、資格取得のための補講を継続して行う。</p>	I (2)c	<p>・学習到達度試験、TOEICを実施した。</p> <p>・学習到達度試験について分析を行った。</p> <p>・資格取得のための補講等を実施した。</p> <p>・TOEICについては、費用を後援会経費より負担をお願いすることとし、両キャンパスとも円滑な実施ができる体制となった。</p>	<p>・学習到達度試験、TOEICを継続して実施する。</p> <p>・資格取得の補講等も継続して実施する。</p>	◎	◎
	<p>・卒業生を含めた学生による適切な授業評価・学校評価を実施し、その結果を積極的に活用する。</p>	<p>・卒業生を含めた学生による適切な授業評価・学校評価を実施し、その分析結果を積極的に活用する。</p>	I (2)d	<p>・授業評価については、例年通り本科と専攻科で実施し、結果を学生にフィードバックした。</p> <p>・卒業生については、卒業式前にアンケート調査を行い、分析を行った。</p>	<p>・卒業生を含めた学生による適切な授業評価・学校評価を実施し、評価の分析とそのフィードバックを実施する。</p>	○	○
	<p>・ロボットコンテスト、プログラミングコンテスト等への参加を促し教育的指導を行うと共に、積極的に活動を支援する。</p>	<p>・上級生から下級生まで偏りのない部員構成と年間を通じた活動計画をもとに、継続して教育的指導を行う。</p> <p>・顧問教員のサポートを強化し、両キャンパスの連携を深め技術面でのレベルアップを目指す。</p> <p>・平成24年度、25年度のロボコン地区大会の世話校として全学的に協力して取り組める体制を構築する。</p>	I (2)e	<p>・均等な学年から部員が構成され、年間を通して活動できるようになった。</p> <p>・両キャンパスの合同ロボコン大会を開催するなど連携を深め、技術面でのレベルアップができた。</p> <p>・平成24年度ロボコン地区大会の世話校(熊本キャンパス)として全学的に協力する体制を構築し、学生ボランティアを含め業務に精励して無事大会を終えることができた。</p>	<p>・顧問教員を中心に指導、支援を強化し、引き続き両キャンパスの合同ロボコンを開催して連携を深め、技術面でのレベルアップを目指す。</p> <p>・平成25年度のロボコン地区大会の世話校として全学的に協力して取り組める体制を構築する。熊本キャンパスは、前回世話校として八代キャンパスを支援する。</p>	◎	○
	<p>・学内美化運動、ボランティア活動を支援・推進する。</p>	<p>・美化委員会の連絡網を作成し活動を活性化させるとともに、年間を通して継続した活動ができるよう支援する。</p> <p>・美化委員による広報活動に力を入れ、ゴミのポイ捨ての抑止、分別収集の徹底、制服リサイクルなどエコスクールに向けた啓発活動の支援を行う。</p> <p>・引き続きボランティアによる環境整備活動の呼びかけを行う。</p>	I (2)f	<p>・年度当初に美化委員会の連絡網を作成し、年間を通して継続した活動ができるよう支援することで円滑な活動ができた。</p> <p>・美化委員が教室掲示等によって啓発活動を行い、ゴミのポイ捨ての抑止、分別収集の徹底、制服リサイクルなどエコスクールに向けた活動を自主的に行うことができた。</p> <p>・ボランティアによる環境整備や美化活動が定着し、持続できるようになった。</p>	<p>・美化委員会による美化運動を引き続き促進する。</p> <p>・美化委員による啓発活動に力を入れ、ゴミのポイ捨ての抑止、分別収集の徹底、制服リサイクルなどエコスクールに向けた自主的な企画を支援していく。</p> <p>・ボランティアによる環境整備や美化活動の安定的、継続的支援を行っていく。</p>	○	○
<p>(3)優れた教員の確保 公募制などにより博士の学位を有する者や民間企業で実績をあげた者など優れた教育力を有する人材を教員として採用するとともに、採用校以外の教育機関などにおいても勤務経験を積むことができるように多様な人事交流を積極的に図る。</p> <p>また、ファカルティ・ディベロップメントなどの研修の組織的な実施や優秀な教員の表彰を始め、国内外の大学等で研究に専念する機会や国際学会に参加する機会を設けるなど、教員の教育力の継続的な向上に努める。</p>	<p>(3)優れた教員の確保 ・多様な背景を持つ教員組織とするため、公募制の導入などにより、教授及び准教授については、採用された学校以外の高等専門学校や大学、高等学校、民間企業、研究機関などにおいて過去に勤務した経験を持つ者、又は長期にわたって海外で研究や経済協力に従事した経験を持つ者の割合を高める。</p>	<p>(3)優れた教員の確保 ・優れた教員を確保に努めると共に、多様な背景を持つ教員の割合を高める。</p>	I (3)a	<p>・優れた教員の確保に向けて、多様な背景を持つ教員について9名の公募を行い、これまで、5名が内定している。</p> <p>・キャリアパス形成のための取り組みとして、教育、研究、社会貢献、学校運営を評価領域とする教員評価制度を導入するとともに、教育、学生指導、研究及び社会貢献活動の各分野で活躍した教員の表彰を行った。</p>	<p>・今後とも公募により種々の経験を持つ多様な応募者が応募できるよう努める。</p>	◎	◎
	<p>・教員の力量を高め、学校全体の教育力を向上させるために、採用された学校以外の高等専門学校などに1年以上の長期にわたって勤務し、またもとの勤務校に戻ることで人事制度を活用するほか、高等学校、大学、企業などとの任期を付した人事交流について検討する。</p>	<p>・長岡、豊橋技科大との連携を図りつつ、「高専・両技科大間教員交流制度」を利用した交流の促進を図る。</p>	I (3)b	<p>・教員のキャリアパス形成に向けて、今年度は「高専・両技科大間教員交流制度」を通して、2名の教員を派遣し、3名の教員を受け入れた。</p>	<p>・技科大・高専間人事交流については今後とも促進を図る。</p>	◎	◎

熊本高専中期目標	熊本高専中期計画	熊本高専 平成24年度計画	index	平成24年度計画の 点検結果	次年度(平成25年度) に向けた課題	達成度 (◎、○、△、×)	
						単年度	通算
						注)単年度 とは平成 24年度	注)通算と は、平成 21~24年 度
	・専門科目(理系の一般科目を含む。以下同じ。)については、博士の学位を持つ者や技術士等の職業上の高度の資格を持つ者、理系以外の一般科目については、修士以上の学位を持つ者や民間企業等における経験を通して高度な実務能力を持つ者など優れた教育力を有する者を採用する。 この要件に合致する者を専門科目担当の教員については全体として70%、理系以外の一般科目担当の教員については全体として80%を下回らないようにする。	・専門科目(理系の一般科目を含む。以下同じ。)については、博士の学位を持つ者や技術士等の職業上の高度の資格を持つ者、理系以外の一般科目については、修士以上の学位を持つ者や民間企業等における経験を通して高度な実務能力を持つ者など優れた教育力を有する者を採用する。 この要件に合致する者を専門科目担当の教員については全体として70%、理系以外の一般科目担当の教員については全体として80%を下回らないようにする。	I(3)c	・専門科目担当(理系の一般科目を含む)の教員については全体として87.5%、理系以外の一般科目担当の教員については全体として86.4%と、目標値を上回っている。 ・採用面接では模擬授業を行ってもらい、教育や研究の面で多方面からの人物像を見ることができた。	・引き続き、民間企業等における経験を通して高度な実務能力を持つ者など、優れた教育力を有する者の採用に努める。	◎	◎
	・女性教員の比率向上を図るため、必要な制度や支援策について検討を行い、働きやすい職場環境の整備に努める。	・男女共同参画社会の実現及び女性研究者の活躍推進の観点から、女性教員の積極的な登用のための環境整備の検討を進める。	I(3)d	・今年度、女性教員1名を採用し、来年度4月に女性職員3名を新たに採用の予定である。 ・熊本キャンパス第一体育館女子更衣室の建具内装を改修した。	・男女共同参画社会の実現及び女性研究者の活躍推進の観点から、女性教員の積極的な登用のための環境整備を継続する。	○	△
	・中期目標の期間中に、全ての教員が参加できるようにファカルティ・ディベロップメントなどの教員の能力向上を目的とした研修を実施する。また、特に一般科目や生活指導などに関する研修のため、地元教育委員会等と連携し、高等学校の教員を対象とする研修等に派遣する。	・ファカルティ・ディベロップメントなどの教員の能力向上を目的とした研修を実施する。 ・機構本部等が主催する各種の教員研修に積極的に教員を派遣する。 ・継続的実施が求められる人権啓発関係の研修は引き続き実施していく。	I(3)e	・平成24年度教員研修会(両キャンパス合同)を9月3日、八代キャンパスにて実施した。 ・高専機構等の主催による研修に、13件(31人)が参加した。 ・人権啓発関係研修に4件(4名)が参加した。	・引き続き、教員研修に教員を派遣する。 ・人権啓発関係の研修を内部で実施するとともに、地域で開催される研修に教員を派遣する。	○	○
	・教育活動や生活指導などにおいて顕著な功績が認められる教員や教員グループを毎年度表彰する。	・教育活動・FD活動や生活指導などにおいて顕著な功績が認められる教員や教員グループへ全学的な表彰を継続して実施する。	I(3)f	・教育活動・FD活動や生活指導などにおいて顕著な功績が認められる教員へ、全学的な表彰を行った。	・表彰制度に基づき全学的な表彰を実施する。	◎	◎
	・文部科学省の制度や外部資金を活用して、中期目標の期間中に、5~10名の教員に長期短期を問わず国内外の大学等で研究・研修する機会を設けるとともに、教員の国際学会への参加を促進する。	・国内外研究員として積極的に教員を派遣するとともに、国内外の大学等での研究・研修や国際学会への参加を促進する。	I(3)g	・外地研究員としての教員の派遣は2名であった。国外での国際会議参加件数は20件であった。 ・今年度末から1名をフランスに、来年度は1名をシンガポールに研究員として派遣することとなった。	・今後とも積極的に教員の研究・研修や国内外の会議への参加をすすめることが必要である。	◎	◎
(4)教育の質の向上及び改善のためのシステム 本校の教員組織編成は、旧熊本電波工業高等専門学校及び旧八代工業高等専門学校の各学科に所属していた教員を、それぞれの専門分野や担当可能授業科目等に応じて、各専門学科、共通教育科、専攻科、各センターに配置し、新高専全体としての教育・研究を高いレベルで継続していくことの出来る構成とする。 更に、教育研究の経験や能力を結集して本校の特性を踏まえた教育方法や教材などの開発を進めるとともに、産業界等との連携体制を強化し、キャンパスの枠を越えた学生の交流活動を推進する。 また、本校における教育方法の改善に関する取組みを促進するため、特色ある効果的な取組みの事例を蓄積し、全ての教職員がこれらを共有することができる体制作りを進める。さらに、学校教育法第109条第1項に基づく自己点検・評価や同条第2項に基づく文部科学大臣の認証を受けた者による評価などを通じた教育の質の保証がなされるようにする。	(4)教育の質の向上及び改善のためのシステム ・新設のPBL・総合教育センター及びICT活用学習支援センターの活動を通して、教材や教育方法の開発を推進する。 ・PBL教育の実施事例を収集し公開するとともに、授業のマニュアル化の検討を開始する。	I(4)a	・「学生の主体的取り組み」についての本校全教員対象のアンケート調査を行い、各教員の取り組みを拾い出しおよびPBL総合教育センターの在り方を検討した。 ・PBL教育に関する教員研修会を、2回開催した。	・優れた取り組みの実践事例集を作成する。 ・PBL利用教育などの研修会を引き続き実施していく。	◎	○	
	・ストーリーミングシステムを使った教材コンテンツ作成システム利用の講習会を開催する。 ・八代キャンパスへも動画編集機器を導入し、ICT活用学習支援センター設備の充実を図る。	・ストーリーミングシステムを使った教材コンテンツ作成システム利用の講習会を開催する。 ・八代キャンパスへも動画編集機器を導入し、ICT活用学習支援センター設備の充実を図る。	I(4)b	・9月3日、熊本高専教員研修会にてストーリーミングシステムを使った教材コンテンツ作成システム利用の講習会を開催した。 ・講義収録・動画コンテンツ作成システム「Cbox P2」を導入した。	・ICTを利用した長期病欠者等への講義視聴サポートシステムを設置する。 ・動画コンテンツの作成を検討する。	○	○

熊本高専中期目標	熊本高専中期計画	熊本高専 平成24年度計画	index	平成24年度計画の 点検結果	次年度(平成25年度) に向けた課題	達成度 (◎、○、△、×)	
						単年度	通算
						注)単年度 とは平成 24年度	注)通算と は、平成 21～24年 度
	・実践的技術者養成の観点から、在学中の資格取得を推進するとともに、日本技術者教育認定機構(JABEE)によるプログラム認定を通じて教育の質の向上を図る。	・JABEEが掲げる2012年度審査基準の改訂に対応して、教育プログラムの学習教育目標等の修正について検討する。 ・新設学科と専攻科の整合性を図るために、学習教育目標にあわせて科目履修の再構成や専攻科カリキュラムの改訂を行う。 ・関連委員会と連携して、引き続きJABEEのC判定事項への改善の取り組みと実績の向上を図る。 ・実践的技術者養成の観点から、引き続き在学中の資格取得を推進する。	I(4)c	・2012年度審査基準について、審査員講習会及びワークショップから、2012年度基準について情報収集し、「学習・教育到達目標」に改めるための検討、エンジニアリングデザイン教育の充実・評価方法・評価基準の検討を行った。 ・新設学科と専攻科の整合性について、以下のような対応を行った。 ○本科の科目の再構成及び専攻科教育プログラム履修の手引きの検討を行った(熊本キャンパス)。 ○本科4年以上の科目群について教育到達目標に改正した場合の各目標への対応、エンジニアリングデザイン科目の充実・融合・複合した専門教育を目指した平成26年度対応新カリキュラムについて、それぞれ改訂案としてまとめている(八代キャンパス)。	・JABEEが掲げる2012年度審査基準の改訂に対応した、教育プログラムを完成し、学内に周知する。 ・関連委員会と連携して、引き続きJABEEのC判定事項への改善の取り組みと実績の向上を図る。 ・九州沖縄地区9高専連携事業の実施に向けた取り組みを開始する。	○	○
・サマースクール、国際交流協定に基づく海外との学生交流、高専フォーラム等を主催し、人的・技術的交流を推進する。	・短期留学受け入れのための指導教員の内規を整備する。 ・短期留学、語学研修への参加者増加に向けての効果的な情報提供や啓発活動に引き続き努める。 ・技術英語研修への選抜を目指した学内指導体制の整備を検討する。 ・引き続き、国際交流協定に基づく海外との学生交流、人的・技術的交流を推進、実施する。	I(4)d	・短期留学受け入れのための指導教員内規について、受け入れに応じた費用補助などの内規の整備を進めた。 ・短期留学、語学研修参加者増加のための説明会を複数回開催した。 ・技術英語研修応募者増加に向けて専門教員と連携した広報を試みた。 ・八代キャンパスにおいて香港IVEからの短期留学受け入れ計画を立案するなど交流をさらに推進した。	・短期留学受け入れのための指導教員の内規をさらに整備する。 ・短期留学、語学研修への参加者増加に向けての効果的な情報提供や啓発活動に引き続き努める。 ・技術英語研修への応募に向けた学生の啓蒙、またその後の選抜を目指した学内指導体制の整備を検討する。 ・引き続き、国際交流協定に基づく海外との学生交流、人的・技術的交流を推進、	◎	◎	
・PBL・総合教育センターを中心に特色ある教育方法の取組みを促進するため、優れた教育実践例をとりまとめるとともに、ICT活用学習支援センターを中心に学術情報のデータベース化を図る。	・優れた教育上の取組みを収集するとともに、研修会を開催する。 ・キャリア教育コア科目の開設・改善に関する検討を行う ・教職員向けキャリア形成支援研修プログラムの開発・試行する。	I(4)e	・優れた教育実践例をとりまとめるために、「学生の主体的取組み」についての本校全教員対象のアンケート調査を行い、その結果をまとめて、教員研修会で報告した。 ・PBL教育に関する、1回の教員研修会を開催した。 ・PBL教育の調査のため、教員1名が在外研修を行った。	・優れた取組みの実践事例集を作成する。 ・PBL利用教育などの研修会を引き続き実施していく。	◎	○	
	・図書のデータベース化を継続して進めるとともに、教材データベースの構築についても検討を継続する。	I(4)f	・図書館の開架図書についてはデータベース化が完了し、新規購入図書も着実にデータベース登録されている。	・開架図書の未登録図書についてデータベース化を進めるとともに、教材データベースの構築を図る。	○	△	
・学校教育法第123条において準用する第109条第1項に規定する教育研究の状況についての自己点検・評価、及び同条第2項に基づく文部科学大臣の認証を受けた者による評価など多角的な評価への取組みによって教育の質の保証がなされるように、評価結果及び改善の取組例について積極的に公開する。	・自己点検評価を適切に行うとともに、評価結果及び改善の取組例について積極的に公開する。	I(4)g	・平成23年度の点検結果を踏まえた改善の取組について、平成24年5月に本校ホームページに外部公開した。 ・平成24年11月に運営諮問会議を開催し、委員の意見から本校への提言を抽出した。 ・平成23年度の運営諮問会議での提言等への改善に向けた対応についてとりまとめ、11月の運営諮問会議で説明した。 ・平成24年度の中期計画について自己点検評価を行った。	・継続して自己点検評価を適切に行い、評価結果・改善の取組例について公開する。 ・運営諮問会議の提言等に対する、改善に向けた検討を行う。	◎	◎	
・インターンシップや共同教育の推進など教育に関する産学連携の推進のための具体的方策を積極的に推進する。	・共同研究を教育に取り込んで活用していく。 ・インターンシップや卒業研究、特別研究等における共同教育について継続して推進する。	I(4)h	・閃きイノベーション事業など、企業との共同による教育を実施した。 ・一部の特別研究・卒業研究において、企業との共同研究を実施した。 ・インターンシップについて、専攻科(電子情報システム工学専攻)においては県内各企業の協力を得て、全員が実施できた。	・引き続き、閃きイノベーション等を開催する。 ・継続して共同研究等を特別研究・卒業研究において実施する。 ・知財関係の授業を企業等の支援を受け実施したい。 ・インターンシップについても継続して推進する。	○	○	
・企業の退職技術者など、知識・技術をもった意欲ある企業人材を活用した教育体制の構築を図る。	・企業人材を活用した共同教育・共同研究等の実績事例の増大を図る。 ・熊本県工業連合会との共同事業「閃きイノベーションくまもと2012(仮称)」を通して、共同教育の構築に取り組む。 ・企業経験のある人材を活用した教育体制を構築する一環として、九州沖縄地区高専と日本弁理士会九州支部との包括協定の締結を図る。 ・九州沖縄地区産学官連携コーディネータを介して、地元企業との共同教育・共同研究等の促進を図る。	I(4)i	・平成24年度、企業人材を活用した共同教育・共同研究等の実績事例を増大を継続して図っている。 ・県工連との共同事業である「閃きイノベーションくまもと2012(企業8社参加)」へ、本科学生の参加を促し、主として専攻科学生を対象に企業との共同教育を実施した(提案件数56件)。 ・また、平成24年度専攻科開講科目「技術開発と知的財産権:専攻科2年」の授業の一環として、熊本高専地域イノベーションシンポジウムで企業経験のある講師が招き、学生に聴講させた。 ・国土交通省八代河川国道事務所と協定締結し、建築社会デザイン工学科3年と土木建築工学科5年を対象として実習を通じた共同教育に取り組んだ。 ・企業経験のある人材を活用した教育体制を構築する一環として、九州沖縄地区高専と日本弁理士会九州支部との包括協定を締結した。 ・九州沖縄地区産学官連携コーディネータを介して地元企業との共同教育・共同研究の促進を図るために「新技術マッチングフェア」「個別相談会」等を実施した。	・平成24年度に、九州沖縄地区高専と日本弁理士会九州支部との包括協定を締結したので、平成25年度は、この協定に沿って共同事業を具体的に実施していくことが課題である。	◎	◎	

熊本高専中期目標	熊本高専中期計画	熊本高専 平成24年度計画	index	平成24年度計画の 点検結果	次年度(平成25年度) に向けた課題	達成度 (◎、○、△、×)	
						単年度	通算
						注)単年度 とは平成 24年度	注)通算と は、平成 21~24年 度
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の研修、教育課程の改善、高等専門学校卒業生の継続教育などに関する技術科学大学や理工系大学との連携活動に積極的に参加する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長岡技術科学大学等のeラーニング利用について学生へ周知する。</li> <li>・放送大学との連携を検討するとともに、高等教育コンソーシアム熊本の単位互換事業へも参画する。</li> <li>・教員の研修、教育課程の改善、高等専門学校卒業生の継続教育などに関する技術科学大学や理工系大学との連携活動に積極的に参加する。</li> </ul>	I (4)j	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長岡技術科学大学等のeラーニング利用について学生へ周知を行った。</li> <li>・放送大学との連携に関して、教員への情報提供を行った。高等教育コンソーシアム熊本の単位互換事業については、コンソーシアム側の検討が継続中である。</li> <li>・教員の研修は両キャンパス合同での研修を実施した。教育課程の改善については、コアカリキュラム、国際化対応のためいくつかの科目の追加を行った。</li> <li>・平成24年度高専・技科大連携教員研究集会に八代キャンパスから1名参加した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の研修について、JABEEや機構主催の研修会等へ継続的に参加する。また、合同での研修会を継続して実施する。</li> <li>・引き続き、放送大学、高等教育コンソーシアムとの連携を継続する。</li> </ul>	○	○
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新設のPBL・総合教育センター及びICT活用学習支援センターの活動を通して、eラーニング教材の開発と利用環境の整備を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ストリーミングシステムを使った教材コンテンツ作成システム利用の講習会を実施する。</li> <li>・「i-Collabo.AutoRec」、 「ThinkBoard」の利用を継続して推進する。</li> </ul>	I (4)k	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9月3日、熊本高専教員研修会にてストリーミングシステムを使った教材コンテンツ作成システム利用の講習会を実施した。</li> <li>・「ThinkBoard」の利用マニュアルを作成中である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを利用した長期病欠者等への講義視聴サポートシステムの環境整備を行う。</li> <li>・「ThinkBoard」の利用マニュアルの作成を継続し、教材の作成に努める。</li> </ul>	○	○
(5)学生支援・生活支援等 中学校卒業直後の学生を受け入れ、かつ、相当数の学生が寄宿舎生活を送っている特性を踏まえ、修学上の支援に加え進路選択や心身の健康等の生活上の支援を充実させる。 また、図書館の充実や寄宿舎の改修などの整備を計画的に進めるとともに、各種奨学金制度など学生支援に係る情報の提供体制を充実させる。さらに、学生の就職活動を支援する体制を充実させる。	(5)学生支援・生活支援等 ・中学校卒業直後の学生を受け入れ、かつ、相当数の学生が寄宿舎生活を送っている特性を踏まえ、中期目標の期間中に全ての教員が受講できるように、メンタルヘルスを含めた学生支援・生活支援の充実のための講習会を実施する。 ・発達障害や学習支援を必要とする学生に対する学内支援体制を導入し運用する。	(5)学生支援・生活支援等 ・学生支援・生活支援のための講演会、学生への調査、連絡協議会における情報交換を継続して行う。 ・保護者に対して様々な相談窓口を紹介し、ワンストップの支援体制作りを進める。 ・特別に学習支援が必要な学生のための特別支援プログラムを継続するとともに、就労に向けたデータ収集、支援の方策などを実現していく。	I (5)a	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生支援・生活支援のための講演会、学生への調査、連絡協議会における情報交換を継続して行った。</li> <li>・保護者総会や文書を通して保護者に対して様々な相談窓口を紹介し、さらに、ホームページや直接学校に寄せられた相談や意見に対してワンストップの対応に努めた。</li> <li>・特別に学習支援が必要な学生のための特別支援プログラムを継続するとともに、就労に向けたデータ収集、支援の方策などを検討した。</li> <li>・学生支援・生活支援の充実のため教職員を対象にしたメンタルヘルス研修会を実施し58名が受講した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生支援・生活支援のための講演会、学生への調査、連絡協議会における情報交換を継続して行う。</li> <li>・保護者に対して様々な相談窓口を紹介し、迅速で細やかな対応ができるように体制作りを進め、情報交換の場を設ける。</li> <li>・特別に学習支援が必要な学生のための特別支援プログラムを継続するとともに、該当学生がいる場合は就労に向けた支援の方策などを実施していく。</li> </ul>	○	○
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT活用学習支援センターを設置し、各種学術情報の利用環境や自学自習環境等の整備を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館の利用状況を調査・分析し、さらなる図書館の利用環境整備に努める。</li> <li>・ICT活用学習支援センターの教育環境の整備のために、教育用パソコンの来年度更新(八代キャンパス)に向けた検討を開始する。</li> <li>・図書館(八代キャンパス)整備として、書庫増床、バリアフリー化、電子掲示板の設置等の予算獲得に努める。</li> </ul>	I (5)b	<ul style="list-style-type: none"> <li>・改修した図書館の利用状況を入館者対象にアンケート調査した。</li> <li>・教育用パソコン更新した。</li> <li>・図書館掲示板への電子掲示板の設置した。</li> <li>・英語教育を目的としたDVDプレーヤーと3D-TVの導入した。</li> <li>・図書館2階通路のバリアフリー化を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館利用状況の調査・分析結果を基に環境整備に努める。</li> <li>・英語書籍の配架の促進する。</li> <li>・DVD英語教材の充実を図る。</li> </ul>	○	○
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寄宿舎の計画的な環境整備を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学寮の計画的・効率的な環境整備を継続して図る。</li> <li>・両キャンパスの学寮間で意見交換や相互視察を行い、相互の長所を活かして、各学寮運営の改善を図る。</li> </ul>	I (5)c	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学寮周囲の樹木の剪定、照明灯の設置、防犯カメラのデジタル化、南棟浴室天井の清掃、事務室・寮監室のLED化、男子寮名簿板導入などを実施した(熊本キャンパス)。</li> <li>・南寮B棟の耐震工事、C棟屋上防水シート工事(雨漏れ防止)、女子寮談話室空調機修理、寮厨房廃棄ダクト改修工事、北寮居室の椅子・ロッカーの更新を行った(八代キャンパス)。</li> <li>・両キャンパスの寮生会役員による相互視察や寮務委員による意見交換会を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経年劣化に対応すべく、引き続き施設・設備の整備を図っていく。</li> <li>・平成23年度より実施している両キャンパス学寮間での寮生会役員による相互視察を継続するとともに、寮務委員会についても、情報交換を進めつつ各学寮運営の改善を図る。</li> </ul>	◎	○
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種奨学金に関する情報をホームページ等で学生に周知する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本学生支援機構、自治体、企業等の奨学金募集や支援事業の迅速な情報提供を引き続き行うとともに、保護者の支援事業への理解を深めていく。</li> </ul>	I (5)d	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本学生支援機構及び自治体、他企業や団体の奨学金募集の周知をホームページや電子掲示板及び教室に掲示した。さらに、担任からも情報提供を行い、保護者の支援事業への理解を深めていくことに努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本学生支援機構及び自治体、企業等の奨学金募集や支援事業の迅速な情報提供を引き続き行うとともに、保護者の支援事業への理解を深めていく。</li> <li>・奨学金返還についての理解と協力を周知徹底する。</li> </ul>	◎	◎

熊本高専中期目標	熊本高専中期計画	熊本高専 平成24年度計画	index	平成24年度計画の 点検結果	次年度(平成25年度) に向けた課題	達成度 (◎、○、△、×)	
						単年度	通算
						注)単年度 とは平成 24年度	注)通算と は、平成 21～24年 度
	・学生の適性や希望に応じた進路選択を支援するため、企業情報、就職・進学情報などの提供体制や専門家による相談体制を充実させる。	・安定した進路決定のため学生、保護者向けの進路相談会等を開催し進路情報の提供を的確、迅速に行う。 ・キャリア教育委員会と連動し低学年にはHR、高学年には講演会などを通してキャリア教育の充実を図り、学生のキャリアプランの自覚を促す。 ・進路支援体制を強化するための企業情報、就職・進学情報などを提供する進路資料コーナーの内容を充実するとともに、専門家による相談体制を充実させる。 ・保護者に対する進路ガイダンスについて検討する。	I (5)e	・安定した進路決定のため学生及び保護者向けの進路相談会等を開催し進路情報の提供を的確かつ迅速に行った。 ・キャリア教育委員会と連動し低学年にはHR、高学年には講演会などを通してキャリア教育の充実を図り学生のキャリアプランの自覚を促した。 ・進路支援体制を強化するための企業情報、就職・進学情報などを提供する進路資料コーナーの内容を充実するとともに、卒業生による説明会を行った。 ・外部アドバイザーやキャリアカウンセラ資格をもつ相談体制を整備した。 ・保護者総会や学科別懇談会などを通して低学年の保護者に対して進路への理解を深める機会を作った。	・学生の適性や希望に応じた進路選択を支援するために、企業情報、就職・進学情報などの提供体制や専門家による相談体制を充実させる。 ・就職内定がもらえない学生が相談する場やサポートをする体制作りを進める。	○	○
(6)教育環境の整備・活用 施設・設備のきめ細やかなメンテナンスを図るとともに、産業構造の変化や技術の進歩に対応した教育を行うため、耐震補強を含む施設改修、設備更新など安全で快適な教育環境の整備を計画的に進める。その際、身体に障害を有する者にも配慮する。 教職員・学生の健康・安全を確保するため実験・実習・実技に当たっての安全管理体制の整備を図っていくとともに、技術者倫理教育の一環として、社会の安全に責任を持つ技術者としての意識を高める教育の在り方について検討する。	(6)教育環境の整備・活用 施設・設備のきめ細やかなメンテナンスを図るとともに、校内施設の老朽化に伴う事故防止のため、定期的に点検を行う。	(6)教育環境の整備・活用 施設・設備のきめ細やかなメンテナンスを図るとともに、校内施設の老朽化に伴う事故防止のため、定期的に点検を行う。 ・東日本大震災の影響による電力需給率低下に伴う節電についての取り組みを推進する。 ・耐震セルフチェックを踏まえた転倒防止策等の実施を継続して行う。	I (6)a	・エアコンや照明の使用についての節電呼び掛けのステッカーを随所に表示し節電呼び掛けるとともに、扇風機の活用や照明のLED化を進めた。 ・夏場(7～9月)の節電の取組により、平成23年度と比較して使用電力量を13%削減できた。 ・第一体育館の内部改修を行った(熊本キャンパス)。 ・寄宿舎の耐震補強を実施した(八代キャンパス)。 ・共通教育棟のバリアフリー化を行った(八代キャンパス)。	・電力料金の値上げが予想されることから、さらなる節電対策が必要である。 ・来年度予定されている専門科目棟Iの改修工事に伴う教室等確保、工事期間中の事故防止に配慮した動線計画など、綿密な工事計画が必要である(八代キャンパス)。	◎	◎
	・高度化・再編に伴う教育の充実に向けて、施設・設備の整備を計画的に推進する。	・高度化・再編に伴う教育の充実に向けて、学年進行を考慮しながら施設・設備の整備を計画的に推進する。	I (6)b	・高度化再編に伴う施設充実の一環として、熊本キャンパスの3号棟及び八代キャンパスの共同教育研究棟を改修した。 ・高度化再編予算での整備に加えて、特別設備費等による予算措置により実験研究環境の大幅な充実がなされた。	・次年度も引き続き新設学科の学年進行を考慮しながら施設・設備の整備を計画的に行っていく必要がある。	◎	○
	・中期目標の期間中に専門科目の指導に当たる全ての教員・技術職員が受講できるように、安全管理のための講習会を実施する。	・「実験実習安全必携」の一層の活用を図ると共に、安全衛生管理のための講習会を継続して実施する。	I (6)c	・新学学期の実験実習ガイダンスにおいて、各学年に対し「実験実習安全必携」及び本校で作成した「実験・実習における安全の手引き」を配付し、教育実習時の安全教育を継続して行った。 ・AEDを使用した救命救急講習会を前年度未受講者を対象に実施し、教職員34名が受講した。 ・セルフケアに係るメンタルヘルス研修会を実施し、教職員58名が受講した。	・安全衛生のための講習会の継続的な開催が必要であり、より充実した研修制度が必要である。	○	△
		・バイク通学学生に対し安全講習会を継続して実施するとともに、講習の時期や内容等についても随時点検し、学生の交通安全教育充実を図る。	I (6)d	・バイク通学学生に対し安全講習会を継続して実施した(約130名受講)。また、講習の時期や内容等についても随時点検し、学生の交通安全教育充実を図ることができた。	・バイク通学学生に対し安全講習会を継続して実施するとともに、講習の時期や内容等についても随時点検し、学生の交通安全教育充実を図る。	◎	◎
II 研究に関する目標 教育内容を技術の進歩に即応させるとともに教員自らの創造性を高めるため、研究活動を活性化させる方策を講じる。 本校の持つ知的資源を活用して、地域を中心とする産業界や地方公共団体との共同研究・受託研究への積極的な取り組みを促進するとともに、その成果の知的資産化に努める。	II 研究に関する事項 ・新設の地域イノベーションセンター及び総務委員会の活動を通して、共同研究や受託研究を推進すると共に産業界や大学などの技術交流を行う。また、科学研究費補助金等の外部資金獲得に向けたガイダンスを開催する。	II 研究に関する事項 ・「研究プロジェクト」の育成・支援を中心として、研究活動の活性化を目指す。 ・科学研究費補助金について申請件数や獲得数の拡大を目指し、これを支援するための研修会・講習会を継続して開催する。	II a	・地域イノベーションセンター等の協力を得て「研究プロジェクト」の募集等を行い、校長裁量経費から7つのプロジェクトに支援を行った。 ・科学研究費補助金申請のための情報交換や申請内容のブラッシュアップを図るための「MoCCoS塾」を開始した。 ・科学研究費補助金の採択率の優れた高専の具体的な取り組み状況の調査等も開始した。	・研究活動活性化に対する継続的な取組の実施を行う。	○	○
	・本校の持つ知的資源を活用して、産業界や地方公共団体との共同研究、受託研究への取り組みを促進するとともに、これらの成果を公表する。	・「閃きイノベーション」企画など、引続き、熊本県工業連合会との連携を推進しながら、相互の研究活動の発展とともに共同研究等の拡大を目指す。	II b	・昨年度に引続き、熊本県工業連合会及び県内企業と連携した「閃きイノベーション2012」を実施した。今年度は、7つの企業提案に対して、本科生を含む56件のアイデア応募があり、書類審査、プレゼン審査を経て、7つの企業賞およびアイデア大賞が選定された。なお、受賞アイデアは「くまもと産業ビジネスフェア」会場での発表も行った。	・アイデア提案等を共同研究等に発展させていく取組の実施を図る。	○	△

熊本高専中期目標	熊本高専中期計画	熊本高専 平成24年度計画	index	平成24年度計画の 点検結果	次年度(平成25年度) に向けた課題	達成度 (◎、○、△、×)	
						単年度	通算
						注)単年度 とは平成 24年度	注)通算と は、平成 21～24年 度
	・技術科学大学や九州地区の高専や大学と連携し、高専の研究成果を知的資産化するための体制を整備する。	・産学官コーディネータを中心に、九州沖縄地区の高専が一体となった知的資産の拡大を目指す。	II c	・産学官連携コーディネータ等の協力を得て、九州沖縄地区研究シーズ等をJST「Aステップ」へ申請した。 ・九州沖縄地区の高専が中心となり、マリンメッセ福岡(福岡市)で「新技術マッチングフェア」を開催した。	・産学連携コーディネータの継続的な任用が必要である。	○	○
III 社会との連携や国際交流に関する目標 再編整備に伴う次に示す3センターの設置により地域連携の推進及び教育の高度化を図る。  ①地域イノベーションセンター 地域の技術研究・技術開発の拠点及びコーディネーターとして、民間企業との共同研究・受託研究等を全体的に展開し、地元産業界の振興を図るとともに、科学技術を中心とした生涯教育を通して地域における人材育成を図る。  ②PBL・総合教育センター PBL利用教育、企業との共同教育や地域との連携教育、国際交流、キャリア教育などを通して、新高専が目指す新しい技術者教育の高度化、高専教員の資質の向上を図るとともに、その成果を他高専や地域教育界へ発信する。  ③ICT活用学習支援センター 図書やeラーニングコンテンツを始めとする各種学術情報の地域ネットワーク拠点として、学生・教職員・地域企業・地域住民に幅広い教育研究支援環境を提供するとともに、自学自習環境や協調学習環境の提供を通して、新高専の学生教育のみならず社会人教育の充実も図る。	III 社会との連携、国際交流等に関する事項 ・高度化・再編により設置する新設の3センターについて施設や設備の充実を計画的に推進する。 ・八代キャンパスに、地域イノベーションセンターおよびPBL総合教育センターの「研究・教育プロジェクト」が共同で利用できる「プロジェクト・ハウス」(仮称)を設置する。	III a	・共同教育研究棟を改修し、地域イノベーションセンター及びPBL総合教育センターの「研究・教育プロジェクト」が共同で利用できる「プロジェクト・ハウス」を設置した(八代キャンパス)。また、熊本キャンパスの地域イノベーションセンターの研究室では研究グループによる以下の活動を行っている。 (第1研究室) 高機能材料とデバイスの開発の研究を実施しており、「超高周波デバイスの信頼化に関する研究」など地元企業と3件の共同研究を実施している。 (第2研究室) 音と電磁波といった波動を基調として研究するグループが活動しており、科費採択課題やPCT出願を行った表面プラズモンに関する研究を実施している。 (第3研究室) 快適性デザイン技術、高齢者・障害者支援技術、感動感性評価技術、バーチャル空間技術の分野の研究を進めており、科費採択課題2件の研究や実用化を目指し地域企業や福祉医療機関との共同研究を実施している。	・八代キャンパス専門科目棟Ⅰの改修に対応しながら、各センターの活動が円滑に行えるよう施設・設備の計画的な運用が必要である。	○	○	
	・教員の研究分野や共同研究・受託研究の成果などの情報を印刷物、データベース、ホームページなど多様な媒体を用いて企業や地域社会に分かりやすく伝えられるよう広報体制を充実する。	・本校教員の研究活動を地域の企業等に分かりやすく伝える研究紹介パンフレットの作成を継続するとともに、研究紹介パンフレットの内容をホームページ等で公開し、より広く研究内容を紹介する。	III b	・昨年度作成した「研究紹介パンフレット」を、イノベーションシンポジウム等の行事の際に配布し、本校教員の研究活動を紹介した。	・デジタル版「研究紹介パンフレット」の作成とPR方法の検討する。	○	○
	・小・中学校を対象とした出前授業を実施し、成果をまとめる。	・PBL総合教育センターを中心に科学技術教育支援のための地域の小中学校への出前授業、工作教室などを実施する。 ・PBL総合教育センターを中心に展示や体験実験等を通じて子どもたちが科学技術への興味と関心を持つ機会を増やすため、地域のイベント等に積極的に参加する。	III c	・PBL総合教育センターを中心に小中学校への出前授業を12回実施し、さらに、体験型の工作・実験講座を8回、地域イベント出展なども7回実施した。 ・九州沖縄地区高専全体の活動:「高専サイエンスネットin九州」の企画を7回実施した。	・小・中化等の影響もあって、参加者の減少傾向が続いているため、企画を常に見直し、より魅力のある内容を模索していく必要がある。	○	○
	・中学生の訪問型の体験実験、体験入学(オープンキャンパス)を実施する。	・夏期に両キャンパスをあげての「オープンキャンパス」を実施し、多数の中学生の参加を目指す。 ・本校の魅力や特徴を広くアピールするため、訪問型の地区説明会の開催や学校説明会、地域のイベント等への参加を積極的に行う。	III d	・訪問型の説明会としての地区別学校説明会を天草地区、水俣・出水地区、人吉・球磨地区、八代地区、荒尾・玉名・山鹿地区、菊池・阿蘇地区で中学生・保護者・中学校教員を対象に実施し、本校の魅力や特徴をアピールした。 ・オープンキャンパスを、熊本キャンパス(夏期463名、冬期143名)、八代キャンパス(夏期443名)で実施し、中学生・保護者・中学校教員への学校説明会や学科企画・展示・実習及び施設見学などを行い、本校の魅力や特徴をアピールした。	・地域のイベント等では、幅広い世代の方々への学校紹介を念頭においたPR方法を検討する。 ・中学生・保護者・中学校教員に本校の魅力・特徴が届く取り組みが必要である。	○	○
	・満足度調査において公開講座の参加者の7割以上から評価されるように、地域の生涯学習機関として公開講座等を充実する。	・地域イノベーションセンターを中心にICT活用学習支援センター及び技術センターの協力を得て、地域の企業向けの技術講座や人材育成事業等を引き続き実施する。	III e	・社会人講座として、以下の3コース10講座を実施した。 【リーダーシップUPコース】 ・現場リーダーの仕事力養成講座 ・プロジェクトリーダーの役割・対応・覚悟 ・リーダー感性育成講座 ・問題解決法講座 【専門技術力UPコース】 ・電子デバイス制御用ソフトウェア開発講座 ・3D-CADを活用した設計力育成講座 ・真空技術講座 ・環境保全技術講座 【教養力UP講座】 ・中国語入門講座 ・熊本の歴史的な知的財産講座  ・全講座の受講者総数は123人であった。講座実施に関するアンケートを実施したところ、回答者数100人(受講者の81%)で内訳(括弧内はアンケート回答者数に対する割合)は以下のとおりである。 ◇十分満足(期待したとおり)59人(59%) ◇概ね満足(期待していた内容とは違っていたが満足を含む)39人(39%) ◇普通1人(1%) ◇全く満足できなかった1人(1%)	・地域のニーズを取り入れた、継続的な実施が必要である。	○	○
	・卒業生の動向を把握するとともに、卒業生のネットワーク作りとその活用を図る。	・同窓会・旧担任と連携して卒業生の動向を把握するとともに、卒業生のネットワーク作りとその活用を推進する。	III f	・同窓会との連携により、各地で開催されている同窓会へ学校関係者が出席した。 ・平成24年12月に同窓会との懇談会を行い、卒業生とのネットワーク強化に向けての意見交換を行った(八代キャンパス)。	・学校と同窓会との連携に向けて、具体的な内容を協議していく必要がある。	○	△

熊本高専中期目標	熊本高専中期計画	熊本高専 平成24年度計画	index	平成24年度計画の 点検結果	次年度(平成25年度) に向けた課題	達成度 (◎、○、△、×)	
						単年度	通算
						注)単年度 とは平成 24年度	注)通算と は、平成 21～24年 度
	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際交流協定の締結や東南アジア地区のポリテクを中心として外国語コミュニケーション能力の向上を目指した留学制度を推進する。</li> <li>国際工学教育研究会ISATE等を通じて、教員の国際交流を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員の国際化教育力を向上する事業を実施する。</li> <li>東南アジアの国際交流協定締結教育機関への留学制度のさらなる充実を図り、学生・保護者の啓発のためにさらに効果的な情報提供に努める。</li> <li>高専機構主催プログラムや本校独自のプログラムを含めて、教員の国際交流活動参加推進の方策を検討する。</li> </ul>	III g	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生の海外研修引率や、教育能力向上のための研修を行った。</li> <li>今年度新しく交流協定が締結されたシンガポールのポリテクに次年度より留学生を送ることになった。</li> <li>今年度より4年生に海外研修旅行を導入し、複数教員が初めて国際交流活動に参加した(八代キャンパス)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員の国際化教育力を向上する事業を引き続き実施する。</li> <li>東南アジアの国際交流協定締結教育機関への留学制度のさらなる充実を図り、学生・保護者の啓発のためにさらに効果的な情報提供に努める。</li> <li>高専機構主催プログラムや本校独自のプログラムを含めて、さらに多くの教員の国際交流活動参加推進の方策を検討する。</li> </ul>	◎	◎
	<ul style="list-style-type: none"> <li>留学生受け入れ拡大に向けた環境整備及び受け入れプログラムの企画等を検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>短期留学生を10名程度受け入れる。</li> <li>留学生受け入れ増加に向けて、ハードとソフト面の充実整備の検討を継続するとともに、学内の支援体制の整備を図る。</li> </ul>	III h	<ul style="list-style-type: none"> <li>テマセクポリテクやオウル応用科学大学、北京航空航天大学北海学院などから短期留学生を10名以上受け入れた。</li> <li>受け入れ内規を整備するなど、支援体制の充実を図った。</li> <li>留学生受け入れ増加に向け、ハード面では短期留学生用のPCの導入を行い、また、ソフト面では日本事情、日本語の補講、企業見学、プロジェクト発表会等を実施し充実させた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>短期留学生を10名程度受け入れる。</li> <li>留学生受け入れ増加に向けて、ハードとソフト面の充実整備の検討を継続するとともに、学内の支援体制の整備を図り、できるだけ多くの教員が活動に携わるよう工夫する。</li> </ul>	◎	◎
	<ul style="list-style-type: none"> <li>機構本部や地域の支援団体と協力しながら、我が国の歴史・文化・社会に触れる機会を提供する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校及び外部支援団体との協力関係を強化し、地域社会との交流の機会を継続しての計画を継続する。</li> <li>日本事情理解のためのカリキュラム策定を引き続き行う。</li> </ul>	III i	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部支援団体と随時連絡を取り、留学生と交流する活動を複数回行った。</li> <li>日本語補講を制度化し、単位認定をおこなった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校及び外部支援団体との協力関係を強化し、地域社会との交流の機会計画を継続する。</li> <li>日本事情理解のためのカリキュラム策定を引き続き行う。</li> </ul>	○	○
IV 管理運営に関する目標 校長を中心とした両キャンパスの、効率的・機能的な管理運営体制を構築する。 また、事務組織を定期的に見直し、事務の電子化、効率化を図る。 さらに、事務職員や技術職員の資質の向上のため、人事の活性化を図るとともに、必要な方策を計画的に実施する。	IV 管理運営に関する事項 ・機構の一員としての迅速かつ責任ある意思決定を実現する。	IV 管理運営に関する事項 ・機構の一員としての迅速かつ責任ある意思決定を実現する。	IV a	<ul style="list-style-type: none"> <li>エアコンや照明の使用についての節電呼び掛けのステッカーを随所に表示し節電呼び掛けるとともに、扇風機の活用や照明のLED化などを進めた。</li> <li>夏場(7～9月)の節電の取組により、平成23年度と比較して使用電力量を13%削減できた。</li> <li>アルジェリア人質事件へのマスコミ対応について、機構本部や関係各校と</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も、不測の事態に備えて学校として迅速な決断を下す必要がある。</li> </ul>	◎	○
	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校の効率的な管理運営の在り方について検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>継続して効率的な管理運営の在り方について検討する。</li> </ul>	IV b	<ul style="list-style-type: none"> <li>効率的な管理運営体制を構築するため、平成25年度から各主事の業務を補佐する目的に主事補制度を導入することを決定した。(八代キャンパス)</li> <li>管理運営体制の基礎となっている委員会規則の見直しを行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も人的なつながりを深めるために、両キャンパス間の交流をさらに進める必要がある。</li> </ul>	◎	○
	<ul style="list-style-type: none"> <li>事務の効率化・合理化を図るため、共通システムの効率的な運用方法について検討を行うとともに、事務マニュアルの充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>管理部門の一元化業務分担及び事務処理方法を検証し、見直しの必要性について検討を行う。また、業務マニュアルの作成について具体的な検討を開始する。</li> </ul>	IV c	<ul style="list-style-type: none"> <li>各課から意見聴取した業務改善事項及び3センター事務支援体制検討WGの検討結果を基に、現事務処理体制の検証を行った。</li> <li>検証結果を受け、業務改善に向けた産学連携関係業務の一元化、電子決済の導入、事務分担の一部見直しなど実施案の策定を行った。</li> <li>業務マニュアルを平成25年度内にまとめるため、共通様式の検討を開始した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務改善事項の検証・改善事項の実行を引き続き行い、事務処理の効率化・合理化に努める。</li> </ul>	◎	◎
	<ul style="list-style-type: none"> <li>事務職員や技術職員の能力の向上のため、必要な研修を計画的に実施するとともに、必要に応じ文部科学省などが主催する研修や企業・地方自治体などにおける異業種体験的な研修などに職員を参加させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事務職員や技術職員の能力向上を図るための学内研修会を計画的に実施するとともに、高専機構、国立大学などが主催する研修会へ積極的に参加させる。また、九州沖縄地区の研修担当校として、職員の能力向上及び資質向上を図るための研修会の企画・立案及び実施を継続して行う。</li> </ul>	IV d	<ul style="list-style-type: none"> <li>高専機構や他機関が開催する研修会への職員参加を積極的に推奨し、延べ60名が参加した。</li> <li>職員の英語の語学力向上を目的に英会話研修を企画、実施し、24名×10回が参加者した。</li> <li>九州沖縄高専の研修担当校として西日本地区の高専職員にも参加を呼びかけ「九州沖縄地区高専実務者担当者勉強会」のほか3件の研修を企画、実施し、延べ110名(内本校延べ15名)の参加者があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、研修計画による職員の能力・資質向上のため、引き続き職員を研修会へ積極的に参加させる。</li> </ul>	◎	◎
	<ul style="list-style-type: none"> <li>事務職員及び技術職員については、国立大学との間や高等専門学校間などの積極的な人事交流を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事務職員については、国立大学やキャンパス間などの人事交流を継続して推進することで事務組織の活性化を図りつつ、熊本高専風土を継承する人材育成のため、国立大学法人等試験合格者からの計画的な採用(プロパーの確保)について検討を開始する。</li> </ul>	IV e	<ul style="list-style-type: none"> <li>事務組織を活性化するため、熊本大学との人事交流者27名、佐賀大学との人事交流者1名と職員の計画的な人事交流を行った。</li> <li>計画的にプロパー職員を確保・育成するため、4名を国立大学法人試験合格者から新規採用した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人事交流計画による他機関等との交流を引き続き積極的に行い、事務組織の活性化、職員のスキルアップに努める。</li> </ul>	◎	◎

熊本高専中期目標	熊本高専中期計画	熊本高専 平成24年度計画	index	平成24年度計画の 点検結果	次年度(平成25年度) に向けた課題	達成度 (◎、○、△、×)	
						単年度	通算
						注)単年度 とは平成 24年度	注)通算と は、平成 21～24年 度
V 財務内容の改善に関する目標 予算の効率的な執行、適切な財務内容の実現、共同研究、受託研究、奨学寄附金、科学研究費補助金などの外部資金の獲得に積極的に取り組み、自己収入の増加を図る。	V 財務内容の改善に関する事項 予算の効率的な執行、適切な財務内容の実現、共同研究、受託研究、奨学寄附金、科学研究費補助金などの外部資金の獲得に積極的に取り組み、自己収入の増加を図る。	V 財務内容の改善に関する事項 予算の計画的執行及び契約形態の改善に努め、さらなる効率的、効果的な執行を促進する。 ・外部資金及び戦略的経費の応募を積極的に促進し、その方策及び具体的な取り組みについて、継続して検討し実施に努める	V	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早期(24年6月の総合運営会議で承認)に学内予算配分を行い効率的、効果的な執行計画を促進し、教育・研究の充実及び施設環境整備を推進した。</li> <li>・各キャンパス複数年度契約件数の確実な進捗及び複合機賃貸借個別契約を一元化して、次年度に向け年間維持管理経費の節減(△2,640千円)を図った。</li> <li>・科学研究費補助金の獲得増加に向けた勉強会(MoCCoS塾)の定期的な開催や、採択率の優れた高専の具体的な取組の訪問調査を実施した。</li> <li>・平成24年度大学間連携共同教育推進事業に九州沖縄地区高専の連携事業として採択され、事業を開始した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成25年度予算(当初予算)の効率化係数及び給与減額に伴う影響額による両キャンパス学内予算配分のあり方を検討する。</li> <li>・科学研究費補助金等の外部資金獲得増加に向けて、引き続き定期的な勉強会・研修会等の実施に努める。</li> <li>・戦略的経費の獲得に向けて、積極的に他機関との連携を図る。</li> </ul>	◎	◎
VI その他 「勧告の方向性を踏まえた見直し案」(平成19年12月14日 文部科学省)、「整理合理化計画」(平成19年12月24日 閣議決定)及び「中央教育審議会答申」(平成20年12月24日)を踏まえ、時代や地域の要請に即応した新しい機能を備えた高等専門学校を目指すとの統合の趣旨に沿った業務運営を行う。	VI その他 ・高度化・再編に伴い、新高専が時代や地域の要請に即応した新しい高専として機能するよう、改革・整備を進める。	VI その他 ・高度化・再編に伴い、新高専が時代や地域の要請に即応した新しい高専として機能するよう、継続して改革・整備を進める。 ・運営諮問会議で出された提言に対して学内で検討する。	VI	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成23年度の運営諮問会議で委員から提案された事項について、自己点検評価委員会及び運営推進会議等で改善策を検討し、学校運営の改善に繋げた。</li> <li>・平成24年11月27日に県内の有識者等を招いて運営諮問会議を開催し、「教育改善プロジェクト」及び「地域に根差した研究活動の推進」について、貴重な意見を頂いた。</li> <li>・地域との連携を深めるために、地域イノベーションセンター及びPBL総合教育センター並びにICT活用学習支援センターが中心となり、地域創発のプロジェクト「響創塾」の創設や、日本弁理士会との協約締結等を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営諮問会議での指摘事項等を活かしながら、今後も継続して改革・整備を進める必要がある。</li> </ul>	◎	○

※「達成度」について：「◎(達成)」、「○(ほぼ達成)」、「△(やや未達成)」、「×(未達成)」  
(平成25年5月9日)